

動物病理学

VT コース専門科目 2 年前期・後期 30 時間 2 単位 講義

講師 倉田健

実務経験のある授業科目	有
実務経験の内容	動物病院における診察・治療
学科・クラス指定等	ベテリナリーテクニシャンコース 2 年
学習目標	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。
学びのキーワード	炎症、変性、壊死、浮腫、充血、うっ血、過形成、低形成、肥大、萎縮、奇形、腫瘍
準備学習及び復習の内容・履修条件	今まで学習してきた動物形態機能学を復習しておくこと。分からないことを積極的に質問し、授業で学んだことを各自で覚える(復習)こと。
授業方法	講義はホワイトボードを利用して板書される。必要に応じて資料を配付するが、教科書に基づいて行う。原則として、学期末試験を 1 回実施して学習深度の向上を図る。
成績評価基準	講義への出席 30%、期末試験 70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備考(テキスト)	動物看護の教科書第 3 巻(緑書房)※形態機能について分からないときに調べるため、動物看護の教科書第 2 巻及び動物看護の基礎(日本動物専門学校協会)も授業に持参すること
授業回数	
1 動物病理学総論①	病理学を学ぶ意味、役割を知る。疾病のさまざまな原因について。内因、外因。疾病とホメオスタシスについて。
2 動物病理学総論②	老化現象、細胞障害因子、壊死とアポトーシスについて
3 動物病理学総論③	病気の発症の機序、病気の成り立ちと変遷、臓器の変化について
4 動物病理学総論④	細胞や組織に生じる変化、組織標本の作製法について
5 退行性変化①	変成、異常タンパク質の沈着、アミロイド症について
6 退行性変化②	糖質および脂質代謝の異常について
7 退行性変化③	核酸代謝の異常について
8 退行性変化④	色素沈着症について
9 退行性変化⑤	無機質(ミネラル)代謝の異常について
10 退行性変化⑥	萎縮について
11 退行性変化⑦	細胞死、壊疽について
12 進行性変化①	肥大、増正(過形成)、再生、化生、異形成について
13 進行性変化②	肉芽組織について

14 循環障害①	充血、虚血、うっ血、出血、水腫と浮腫、脱水について
15 循環障害②	血液凝固と線溶系、播種性血管内凝固 (DIC) について
16 循環障害③	血栓症、塞栓症、梗塞について
17 炎症①	炎症の原因と役割、5大徴候について
18 炎症②	炎症の経過と治癒過程について
19 炎症③	急性炎症について
20 炎症④	慢性炎症について
21 免疫病理①	免疫担当細胞、免疫不全症について
22 免疫病理②	アレルギーについて
23 免疫病理③	自己免疫疾患について
24 腫瘍①	腫瘍の定義、発生機序について
25 腫瘍②	異型性、転移、悪液質について
26 腫瘍③	腫瘍の名称 (癌、肉腫) について
27 先天異常 (奇形) ①	先天異常とは、先天異常の原因、発生機序について
28 先天異常 (奇形) ②	遺伝子異常、形態的異常、組織奇形、発育異常について
29 先天異常 (奇形) ③	癒合不全、分離異常、位置の異常、遺残について
30 総まとめ	